

ヤマトグループ 「地域共創事業」のご紹介

ヤマトホールディングス株式会社

—— 暮らしのネコの手サポート ——



provided by  ヤマトグループ

創立100周年を迎えて

ヤマトグループ°2020年 正月広告



100

マークは変わりません。
でも、クロネコヤマトは変わります。

たくさんのお客様が支えられて
ヤマトグループは昨年11月、創業100周年を迎えることができました。
2020年は、其の100年に向けた新たなスタートの年です。

私たちはこれまで、時代の変化に即応しとイノベーションを推進、
お客様が求めるサービスを提供してきました。
お客様が求めていることを察知し、
それを察知するにあたり、課題を洗い、課題を乗り越え解決してきました。
ヤマトグループの歴史は、チャレンジの歴史。

ご来店や、時代の変化がお客様にニーズに即応することができずとも、
たくさんのお客様の課題を解決することができると、
持続可能な社会の実現に向けて、
私たちは変わらなければなりません。

ヤマトグループには、全国をカバーするネットワーク、様々な拠点、
そして膨大なデータの蓄積があります。

何より、多様なお客さまとの「接点」があります。

これらの機能とノウハウを、
特定のサービスの型にはめるだけの時代は終わりました。

ヤマトグループの資産をどのように活かし、分解し、組み合わせれば、
より良いサービスや商品を提供できるのか、
社会の役に立てるのか。

私たちは変わっています。
お客様も、企業も、社会も、そして社員もそれぞれに
イノベーションを力まぎりに推進してまいります。

どうぞ、これからもヤマトグループにご期待ください。
新しいチャレンジへ。
今年、101年間の歩みをお楽しみください。

ヤマトグループ

(抜粋)

これから先も、時代の変化から生まれるニーズに応えることができるか。

たくさん社会的な課題を解決することができるか。

持続可能な社会の実現に向けて、

私たちは変わらなければなりません。

ヤマトグループには、全国をカバーするネットワーク、様々な拠点、

そして膨大なデータの蓄積があります。

何より、多様なお客さまとの「接点」があります。

これらの機能とノウハウを、

特定のサービスの型にはめるだけの時代は終わりました。

ヤマトグループの資産をどのように活かし、分解し、組み合わせれば、

より良いサービスや商品を提供できるのか。

社会の役に立てるのか。

ヤマトグループは従来のデリバリー企業ではなく、
「より便利で快適な生活関連サービスの創造する」
企業へと変わります。

ヤマトグループが地域共創事業に取り組む背景

ヤマトグループの経営課題

・弊社はこれまで、ユニバーサルサービスかつダイナミックインフラとしての「宅急便」を最大のエンジンとして、ラストワンマイルで事業を展開

・外部環境の変化に伴い、従来の軒先までだけでなく、イエナカや職場に入らせて頂くことで個々人のニーズやウォンツに応じた、リアルで温かみのあるカスタマイズサービスの重要性を認識

・これまで弊社が築いてきたアセット（顧客との信頼関係、SD、車両、ネットワーク）と生活支援面に於けるソーシャルネットワークとを有機的に組み合わせた新規事業を創出する

(宅急便の進化・発展)



主な外部環境の変化

- ・まちづくり分野において、交通インフラや通信インフラなどの整備が急速に進んでいくなかで、生活者の生活利便向上のためには、ハードとソフトサービスの融合が必要
- ・社会保障費の増大による各種影響が取りざたされているなかで、医療/介護分野の手前の生活支援（予防）分野の重要性が増大

地域共創事業が目指す姿

「総合生活サポートのプラットフォーム」として、物流を含めた様々なソフトサービスをパートナーと共創し、生活者および事業者・自治体に、持続可能なビジネスモデルとして提供この「リアル×ITのオープンプラットフォーム」機能を様々な業種業態へ展開することで、地域社会のインフラとして、日本の「地域活性化」と「暮らしの利便性向上」を実現

